

## パンヤピワット経営大学 及び附属中高等学校を訪問

プログラミング授業&プレゼンを実施

九月十日(月)と十一日(火)、我々斎藤正武ゼミの十六名は、パンヤピワット経営大学附属中高等学校(PIM Satit)を訪問し、中学二年生の生徒にプログラミング授業を行った。「プログラミング教育が論理的思考能力(ロジカル・シンキング)向上に役立つこと」を研究課題として、研究を行っており、教えるのに用いたプログラミングは、マサチューセッツ工科大学(MIT)が開発したビジュアルプログラミング言語



の「スクラッチ (Scratch)」で、各々で考えたシナリオでゲームを作成するという内容で授業を実施した。二グループに分かれ、五クラス計約百七十名を相手に授業を実施した。筆者はプログラミング班として参加した

が、生徒たちはプログラミングに興味津々で大変盛り上がった。筆者が特に驚いたことは、まだ中学生だというのに、英語はペラペラ、おまけに全生徒が英語を持ち使いこなしている点であった。英語を用いて教えることは正直とても苦勞したが、これからの世の中、今回のように翻訳サービスなどを

駆使し、異文化異言語コミュニケーションが当たり前となってくるであろう未来に向けて素晴らしい経験ができたように感じた。

タイでのもう一つのメインイベントは、PIMでのプレゼンテーションだ。我々は、日本とタイのコンビニについてを発表した。我々のほかに、PIMに在学のミャンマーとカンボジア、そしてタイ出身の学生たちがそれぞれの国の流通についてのプレゼンを行い、互いの国についての理解を深めることができた。日本の流通を紹介する一環とし



て、日本の各社が販売するプライベートブランドの紹介なども行い、日本のお菓子に触れてもらうなど、工夫を凝らしたプレゼンを行うことができた。今回の経験を活かし、今後世界とつながり、互いの文化を理解し、成長しあっていきたいと全員が思える体験となったことは間違いないといえるであろう。